

# カッパの清吉と 海のようかい





あいちけん 愛知県の かわ とある川には かわぬし 川の主が いと いると いいます。

その かわぬし 川の主は せいきち カッパの清吉。 かわ 川の ようかい ようかいです。

せいきち 清吉は うつく この美しい川が だいす 大好きでした。

<sup>せいきち</sup>「清吉～! たすけて! <sup>うみ</sup>海が <sup>たいへん</sup>大変なんだ!」

<sup>ひ</sup>ある日 <sup>ともだち</sup>友達の <sup>かもめ</sup>カモメの <sup>モン</sup>モンが <sup>うみ</sup>海から やってきました。

<sup>せいきち</sup>清吉は <sup>いぜん</sup>以前 <sup>うみ</sup>海に <sup>あそ</sup>遊びに行き、 <sup>おいしい</sup>おいしい魚を <sup>た</sup>食べたり、

<sup>かい</sup>貝がらを <sup>ひろ</sup>拾って <sup>あそ</sup>遊んだりしたときに、 <sup>モン</sup>モンと <sup>ともだち</sup>友達に なりました。





ちか  
近ごろ、モンの <sup>す</sup>住む <sup>はまべ</sup>浜辺では  
み  
見たこのとない ようかいが  
い  
生きものに <sup>わる</sup>悪さを しているといひます。



「<sup>はなし</sup>話も <sup>つう</sup>通じないし、 <sup>みんな</sup>みんな <sup>ほんとう</sup>本当に <sup>こまってる</sup>こまってる。  
<sup>おな</sup>きっと <sup>おな</sup>同じようかいの <sup>きみ</sup>君なら <sup>はなし</sup>話を <sup>き</sup>聞いてくれると <sup>おも</sup>思うんだ。」  
「よし。 <sup>わかったよ!</sup>わかったよ! <sup>いっしょに</sup>いっしょに <sup>い</sup>行こう。」 <sup>せいきち</sup>清吉は <sup>モンと</sup>モンと <sup>いっしょに</sup>いっしょに <sup>かわ</sup>川を <sup>くだ</sup>下りました。

はまべ  
浜辺に つくと、

そこには たくさんの ごみが <sup>あつ</sup>集まっていた。

「わ～!! きたない…!

<sup>まえ</sup>前に <sup>あそ</sup>遊びに <sup>き</sup>来たときは、もっと <sup>うみ</sup>きれいな 海だったのに。」



そこに いたのは こんな ようかいたちでした。



かみついて  
やるぞ~!!

ぼう  
**キカン坊**

するどい は 歯で  
い 生きものに かみつく



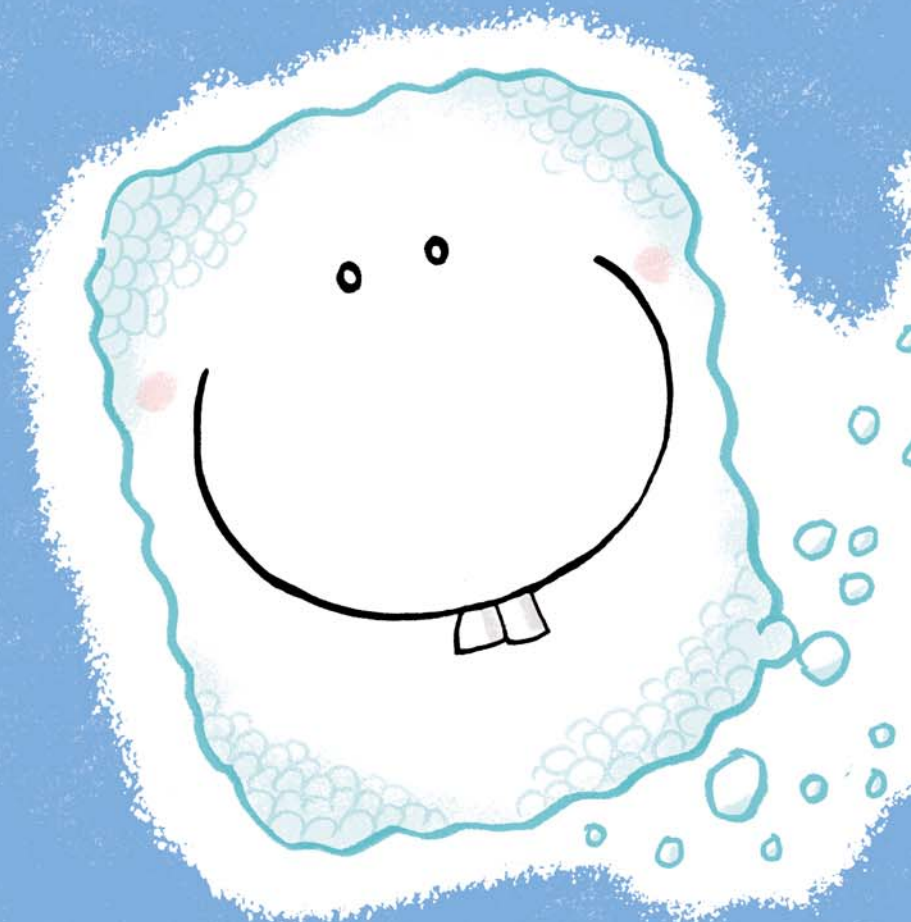
いたいよ~!



たすけて~!

**ぎよもー**

い 生きものに からまったり、  
ある ひと 歩く人を ひっかけたりする



## ビンボー

われると きけん!  
だれかが <sup>ひろ</sup>拾ってくれるまで  
ずっと その場所から <sup>はしょ</sup>はなれない



## スチロー

<sup>じぶん</sup>自分の <sup>からだ</sup>体を <sup>こま</sup>細かく ぐだいて、  
<sup>い</sup>生きものの <sup>エサ</sup>エサに なりきり、  
<sup>からだ</sup>体の <sup>なか</sup>中に <sup>はい</sup>入りこむ



# ボトルン

あやしい えきたい 液体を まきちらす



この クラゲ  
おいしくないな…

# ブクロー

クラゲの ふりをして ウミガメに た 食べられたり、  
い 生きものや ふね 船の スクリューに からまったりする

「海の生きものが こまってるんだ。悪さをしないで くれない？」

「ぼくたちだって 好きで ここに いるんじゃないよ！」

「君たち どこから 来たの？」

「ぼくたちは 大雨で 川から 流れてきたんだ。

もとの 場所に 連れて行って くれませんか？」



せいきち  
清吉は ようかいたちを もといた場所<sup>ばしょ</sup>に 連れて行くこと<sup>い</sup>に しました。



「君<sup>きみ</sup>は ここ?」

「そうだよ。あ!


あそこにいる あの<sup>ひと</sup>人に すてられたんだ!」

せいきち  
清吉は 気づかれないように そっと かばん<sup>なか</sup>の中に  
ようかいを ひそませました。



「君は <sup>きみ</sup>ここ?」

「そうだよ。ちゃんと  
ごみ箱に <sup>はこ</sup>入れてくれなかったから <sup>ころ</sup>転がっちゃった。」



ほんとう  
本当は  
リサイクル  
できるのに…

「君は <sup>きみ</sup>ここから <sup>き</sup>来たの?」

「そうだよ。 <sup>やさい</sup>野菜を <sup>い</sup>入れる <sup>しごと</sup>仕事をしていたのに  
<sup>かぜ</sup>風で <sup>と</sup>飛ばされたのさ。」

きみ  
「君は ここ？」

「そうだよ。ここで さかな を とる しごと を していたのに  
ロープが切れて なが 流されたのさ。」



きみ  
「君たちは ここ？」

「そうだよ。ここから かせ で と 飛ばされたり  
ころ 転がったりして かわ に お 落ちたんだ。」

いつの間にか もどってきた ごみようかいたちに  
人間たちは おどるきました。

「わ! なんだ これは!!!」

「き... きたない~!」



はまべ  
浜辺にいた ようかいたちは、

もとは まちの にんげん かに と かわ うみ  
もとは 街の 人間に すてられたり 風に飛ばされたりして 川から 海へと

なが  
流れていった ごみたち だったのです。



「ごみが <sup>ほう</sup>ない方が、 <sup>かわ</sup>川も、 <sup>うみ</sup>海も <sup>うつ</sup>美しいのに…  
<sup>い</sup>生きものたちだって <sup>こ</sup>こまらない。」 <sup>せいきち</sup>清吉は <sup>そう</sup>そう <sup>おも</sup>思いました。





それからというもの、  
清吉は <sup>せいきち</sup>川や <sup>かわ</sup>海で <sup>うみ</sup>  
ごみを <sup>ひろ</sup>拾っては  
もとの <sup>ばしょ</sup>場所に <sup>かえ</sup>返すようになりました。

「君の <sup>きみ</sup>おうちにも  
ごみようかいが やって 来るかもね。  
え? <sup>こ</sup>来ないで ほしい?  
じゃあ どうしたら いいかな。」

# うみ 海ごみをなくすために、わたしたちができること

で  
出るごみを  
へらそう!

No!



ごみはポイすてせず、  
も かえ  
持ち帰ろう!



せいそうかつどう  
清掃活動に  
さんか  
参加しよう!

